



万里一空

御津中学校 校長室だより
令和8年4月9日 No.15

入学式 式辞

春の光が柔らかく降り注ぎ、校庭の木々が若葉を芽吹かせる今日の佳き日、豊川市立御津中学校に入学してきた114名のみなさん、入学おめでとうございます。

今日から皆さんは、歴史ある御津中学校の一員です。真新しい制服に身を包んだ皆さんの表情からは、中学生になることへの期待と、少しの不安が伝わってきます。どうかその真っ直ぐな気持ちを大切に、一日一日を積み重ねていってください。

さて、皆さんがこれから三年間を過ごす「学校」とは、一体どのような場所でしょうか。学校の「学」という字は、もともとは「學」と書きます。この字に含まれる「臼」は両方の手を、「メ」は交差する様子を表し、「わかんむり」は屋根のある校舎、そして「子」は皆さん子どもたちを指しています。つまり、屋根の下で先生と生徒が知恵を交わし合い、学ぶ姿を表しています。また、「校」という字には「交わる」という意味があります。教師と生徒、そして生徒同士が互いに関わり合いながら物事を学んでいく場所、それが学校です。

この「交わり」をより豊かなものにするために、今年度、皆さんに特に意識してほしい三つの柱があります。それは「あいさつ」「歌声」「みがく」です。

「あいさつ」で心を開く。あいさつは、相手の存在を認め、肯定する最高の贈り物です。その一言が、誰かの心を温め、学校を「明日も来たい場所」に変えていきます。

「歌声」で心を合わせる。一人では作れないハーモニーを、仲間と共に響かせてください。声を合わせることは、互いの個性を認め合い、一つの目標に向かう団結力を養います。

「みがく」自ら学習、みんなで学習、御津の学習スタイルのことを言います。一人で机に向かうだけでは気づけなかった視点も、仲間と共に話し合い活動を行うことで、皆さんの世界は大きく広がります。時には意見がぶつかることもあるでしょう。しかし、それこそが貴重な学びの機会です。自分と他人との違いを知り、調整しながら調和していく力。この「共に生きる力」こそ、これからの時代において最も必要な力となります。「自分を大切にすると同時に、隣にいる友人もかけがえのない存在である」ということを、この三年間で深く実感してほしいと願っています。

保護者の皆様、本日はお子様のご入学、誠におめでとうございます。中学校の三年間は、心身ともに劇的な変化を遂げる、密度の濃い貴重な時期です。私たち教職員は、お子様の「命」を真ん中に据え、学校と家庭が手を取り合い、一步一步、歩いていきたいと考えております。

昨今、社会の在り方はかつてないスピードで多様化しています。正解のない時代だからこそ、子どもたちが自ら考え、逞しく歩いていけるよう、私たちも共に汗をかき、全力で支援していく所存です。どうぞ温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、今日という日が、新入生の皆さんにとって、そしてご家族の皆様にとって、素晴らしい三年間のはじまりとなることを心より祈念し、式辞といたします。

令和8年4月9日

豊川市立御津中学校長 峯村 邦泰

